

## 例題

★ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20

15

10

5

## 学習の要旨

説明文や論説文ろんせつぶんを読むときは、文章全体の話題と段落だんらくごとの要点から段落関係をつかみ、そこから要旨ようしをとらえることが大切です。

## ① 話題と要点のとらえ方

● 話題とは……その文章が何について書かれているかということ。

## ① 第一段落

② 「～について」「～とは」という表現

③ 問いかけの文(「～でしょうか」「～だろうか」など)

④ くり返し出てくる言葉(キーワード)

● 要点とは……それぞれの段落の中心的内容。

## 注目ポイント

① 段落の中心文↓段落のはじめか終わりにあることが多い

② 後に要点が述べられる接続語・指示語

・「だから」「したがって」「つまり」などの接続語  
・「こうして」「このように」などの指示語

## ② 段落関係と要旨をとらえる

● 段落関係は、次のような手順でとらえる。

① 形式段落の要点をとらえる。

② 要点をもとに、各形式段落の役割やくわりを考える。

例・筆者の考えや意見を示す段落

・具体例を示す段落

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 茂木健一郎「緊張を味方につける脳科学」より

プレゼンテーション：計画や企画などを説明すること。  
 クライアント：仕事を依頼している相手。注文主。

問一 この文章の話題をまとめた次の文の [ ] にあてはまる言葉を、文章中から二字で書きぬいて答えなさい。 [話題]

人が初めての出来事に対して [ ] する理由について。

問二 [4] 段落の要点をまとめた次の文の [A]・[B] にあてはまる言葉を、文章中からAは三字、Bは二字で書きぬいて答えなさい。 [要点]

私たちが緊張するのは、経験の特殊性や [A] に戸惑い、どう [B] したら良いかわからなくなるからだ。

A	B
-----	-----

問三 この文章の要旨をまとめたものとして最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。 [要旨]

- ア 初めての出来事では緊張しない。
- イ 初めての出来事によって人は学ぶことができる。
- ウ 初めての出来事は特殊な学びと考えるべきである。
- エ 初めての出来事はうまく対応できなくてよい。

[ ]

### 考え方

- ・原因、理由、根拠を示す段落 など
- ③ 役割をふまえて、形式段落どうしのつながりを考える。
- ④ 意味段落(内容のうえでつながりが強い、形式段落のまとめ)にまとめる。

● 要旨とは……説明文や論説文において、筆者が最も伝えたかったこと。

- ① 文章全体の話題をとらえる。
- ② 段落どうしのつながりをとらえる。
- ③ 結論段落(中心となる段落)をおさえ、その要点をとらえる。
- ④ 「文章全体の話題」と「結論段落の要点」をもとに要旨をまとめる。

問一 [1]の段落に「緊張は必ずしも悪いものではありません」とあります。そして、どうして緊張が悪いものではないのか、ということが以降の段落で書かれています。

問二 [4]段落では、緊張する理由を、具体例を挙げて説明しています。

ポイントを押さえて、要点をとらえましょう。

#### 具体例

- ・「このクライアント」にプレゼンするのは初めて
- ・「こんな地震」は経験したことがない

← 初めての経験、経験の特殊性に戸惑い、どうしていいのかわからないため、緊張する

問三 文章の要旨が述べられている段落を見つけることが手がかりになります。この文章では、[5]・[6]段落で、「初めてのことに遭うこと」が脳にとつての「学び」であると書かれています。「緊張」は「『初めて』の出来事」に対して起こるものですが、「学び」があるために「必ずしも悪いものではない」([1]段落)のです。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(樋口裕一「ホンモノの文章力」より)

45 40 35 30 25

(注) 不読者：無作法な者。

□ 定番問題

□ 1 □ 3 にあてはまる接続語を次の中から選び、

それぞれ記号で答えなさい。  
**接続語**

- ア しかも イ あるいは
- ウ しかし エ なぜなら

1
2
3

□ 問一

この文章の話題は何ですか。五字で答えなさい。  
**話題**


□ 問二

□ 1 段落の内容に対して、筆者はどのような意見を持っていま  
すか。文章中から十七字で書きぬいて答えなさい。


□ 問三

□ 4 段落の要点を次のようにまとめました。□ にあてはま  
る言葉を、文章中から二十字で書きぬいて答えなさい。**要点**  
手紙には□ という長所がある。


□ 問四

——線「手紙であれば、冷静に考えることができる」とあり  
ますが、ここではどのような場合を例に挙げて、手紙を書くこ  
とをすすめていますか。「〜ような場合。」に続く形で、文章中  
から九字で書きぬいて答えなさい。


ような場合。

□ 問五

□ \* にあてはまる言葉を、文章中から三字で書きぬいて答  
えなさい。


□ 問六

□ 7 段落の要点を次のようにまとめました。□ A □ C に  
あてはまる言葉を、文章中から A は十五字、B・C は六字で書  
きぬいて答えなさい。**要点**  
手紙には □ A □ という長所もあり、□ B □ を書かないように  
注意する必要があるが、楽しい手紙であれば、人と人との関係  
を □ C □ にすることができる。


## 2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25

20

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50

45

40

35

30

6



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

20 15 10 5

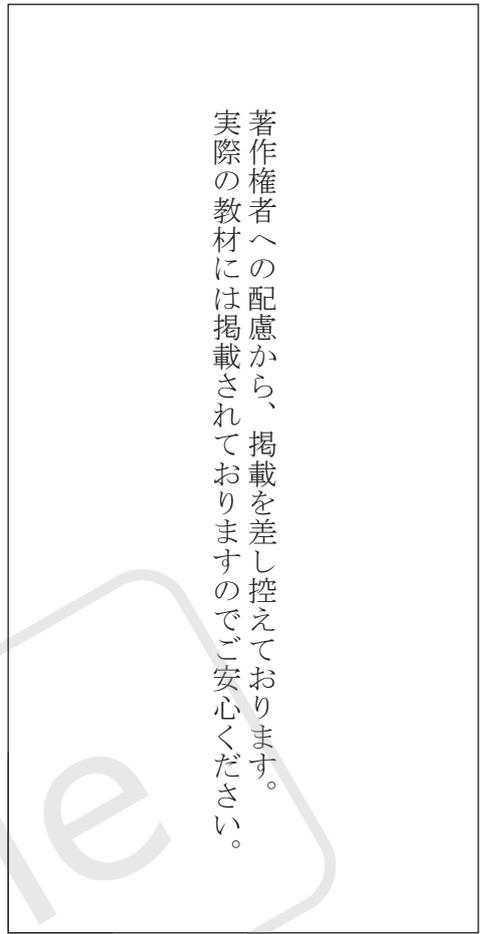
著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50 45 40 35 30 25

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 悪貨が良貨を駆逐する…悪がはびこると善が減びることのたとえ。  
 (齋藤孝 「学校では教えてくれない日本語の授業」より)

玉石混淆…すぐれているものと、おとつているものが混じっていること。



60

55

問一 — 線①・②「それ」が指している部分を文章中からさがし、

それぞれ五字以内で書きぬいて答えなさい。(指示語)

① 


② 


問二 ⑥段落の要点として最もふさわしいものを次の中から選び、

記号で答えなさい。(要点)

ア 「情けは人のためならず」には、正反対の意味が同時に存在している。

イ 言葉が言葉としての意味をなさないような乱れ方は止めなければならない。

ウ 「情けは人のためならず」の誤った使われ方に対して、間違いを繰り返し指摘するべきだ。

エ 言葉の乱れを許容してしまうと、相反する意味が同時に成

立してしまう。

問三 — 線③「正しい日本語を身につける」とありますが、正しい日本語を身につけるために筆者はどのようにすることを勧めていますか。文章中の言葉を使って、四十字以内で答えなさい。


問四 — 線④「敢えて言葉を崩して楽しむことで変化していくエネルギー」とありますが、この「エネルギー」と同じ意味で使われている言葉を文章中からさがし、六字で書きぬいて答えなさい。


問五 この文章の話題として最もふさわしいものを次の中から選

び、記号で答えなさい。(話題)

ア 学力不足が招く言葉の誤用

イ 正しい日本語の学び方

ウ インターネットの危険性

エ 言葉が持つ「乱れるエネルギー」

--

--

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25

20

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

50

45

40

35

30

10

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

80

75

70

65

60

55

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。



125

120

115

(注)

(山極寿一「京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと」より)

猛禽類…鳥獣類を主食とする、ワシやタカなどの大型の鳥類のこと。

霊長類…霊長目の哺乳類の総称。サル類で、人間もふくまれる。

普遍的…すべてのものに当てはまるさま。

斟酌…事情などを推察すること。

バクテリア…細菌。

乞われる…他人に、してほしいと願われられる。

種…生物の分類をするうえでの一単位。

賜物…もらいもの。さずかりもの。ここでは、結果として得られた良い

事態のこと。

問一

この文章の話題は何ですか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。(話題)

ア 熱帯雨林で暮らす動物と、草原で暮らす動物について。

イ 人間が、直立二足歩行をするようになった理由について。

ウ 人間と他の動物の進化の過程のちがいについて。

エ 人間が、教育という行為をする理由について。

問二

人間の社会性について書かれているのはどの段落からですか。段落番号で答えなさい。(段落関係)

 段落

問三

2段落の要点を次のようにまとめました。Aは二字、Cは三字

であてはまる言葉を、文章中からAは五字、Bは二字、Cは三字

で書きぬいて答えなさい。(要点)

教えられる側は自分がないAを相手が持っているB

し、教える側も相手が自分の持つAを知らないことを知っ

ていて、自分のCを承知して相手に伝えようとすることを「教示行動」と呼ぶ。

B	A
C	

□問四

文章中に出てくる動物を、「教示行動」をするものと、「教示行動」をしないものにかけて表に書きなさい。(ただし、人間・チンパンジーは除きます。)

教示行動をするもの	教示行動をしないもの

□問五

6段落の要点を、「犠牲」「独自」という言葉を使って、五十字以内にまとめて書きなさい。(要点)


# 文節と文節の関係

文は、ふつう、いくつかの「文節」からできています。その文節の働きには、主語・述語・修飾語・接続語・独立語がありますが、文節と文節の関係は次のようになります。

## ●主語・述語の関係

主語が述語にかかり、述語が主語を受ける関係。

・主語：「何(だれ)が」にあたる文節。

・述語：「どうする・どんなだ・何だ」にあたる文節。

例 鳥が 鳴く。

何が どうする

水が 冷たい。

何が どうなる

父は 医者だ。

何が 何だ

## ●修飾・被修飾の関係

「いつ・どこで・何を・どのように」→「どうする」「どんな」→「何」などの関係。

・修飾語：「いつ・どこで・何を・どのように・どんな」などを表して他の文節をくわしく説明している文節。

例 花が 美しく さく。

美しい 花が さく。

## ●対等(並立)の関係

二つ以上の文節どうしが対等に並んでいる関係。

例 海は 広くて 深い。 やさしく かしこい 若者。

## ●補助・被補助の関係

下の文節が上の文節に補助的な意味をそえる関係。

例 弟が 笑って いる。 詩を つくって みる。

### 問一

次の各文から、主語と述語を、それぞれ一文節で書きぬいて答えなさい。省略されている場合は、×を書きなさい。

- (1) あそこに見える建物が目的地だ。
- (2) 東京スカイツリーが川の水面に逆さにうつる。
- (3) うわさによると、努力家らしいよ。
- (4) とてもおもしろいね、この映画は。
- (5) となりのおじさんも万博ばんぱくに行くそうだ。

(1) 主語

述語

(2) 主語

述語

(3) 主語

述語

(4) 主語

述語

(5) 主語

述語

### 問二

次の各文で、の文節が修飾している部分を、それぞれ一文節で書きぬいて答えなさい。

- (1) ぼくは三年生のときに  水泳教室に 行き始めた。
- (2) 弟は  何をするにしても  強い。
- (3) ホテルのロビーには  大きな 絵がかざられていた。
- (4) 最初に、わたしの  姉を  みんなに  しようか  いた。

(1)

(2)

(3)

(4)

□問三 次の各文で、対等（並立）の関係にある文節どうしを、例にならって示しなさい。

例 冬は 暗くて 寒い。

- (1) 父と母が買い物に出かけた。
- (2) この店はやさしくて明るい店員が多い。
- (3) 戦争が始まるまで、町は平和で静かだった。
- (4) 店の前を行ったり来たりしている。

□問四 次の各文で、補助・被補助の関係にある文節どうしを、例にならって示しなさい。

例 鳥が 鳴いて いる。

- (1) 朝から雨が降っている。
- (2) 試験があるので勉強しておこう。
- (3) とりあえずやってみよう。
- (4) つかれたから早くねてしまおう。
- (5) そこには立入禁止と書いてある。

□問五 次の各文の——線部の文節どうしとの関係を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 優勝するの**が**、ぼくたちのチームの**目標**だ。
- (2) 子役として、ときどきテレビに**出**て**い**る。
- (3) 情けないやら、くやしいやらで、ねむれなかった。
- (4) 冷たい雨が、ようしやなく、かれを痛めつけた。
- (5) 庭の池が、陽光を**反**射し、きらきら**か**がやく。
- (6) 見て、もらいたいの**は**、子供たちの**がんばり**です。
- (7) わたしが好きな季節は、春と**秋**だ。
- (8) 待ち合わせの時間までに、**読**んで**し**まおう。
- (9) きれいに、かたづける**こ**とが**苦**手だ。
- (10) ショッピングモールに、家族で**買**い物に**行**く。
- (11) どう、学校へ行く**準**備は**で**きたの。
- (12) まさか、かれが約束を**破**る**こ**とは**あ**るまい。
- (13) 将来は、世界中を**め**ぐる**旅**人になりた**い**。
- (14) 道路わきに、白く、小さい**花**が**さ**く。
- (15) 家庭内のルールは**守**って**い**る。

ア 主語・述語の関係  
 イ 修飾・被修飾の関係  
 ウ 対等（並立）の関係  
 エ 補助・被補助の関係

(11)	(6)	(1)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(12)	(7)	(2)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(13)	(8)	(3)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(14)	(9)	(4)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
(15)	(10)	(5)
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

●慣用句

二つ以上の言葉が結びついて、もとの意味とは異なる特別な意味を表す言葉を、「慣用句」といいます。慣用句には、体の一部を表す言葉を使ったものや、身近な動植物を使ったものなどがあります。

・体の一部を表す言葉や動植物を使った慣用句

例 目がない（とても好きである。） 鼻が高い（得意である。）

舌を巻く（感心する。） すずめの涙（ごくわずかなこと。）

根を下ろす（安定した位置をしめる。）

・その他の慣用句

例 泡を食う（びっくりしてあわてる。）

色を失う（驚きや恐怖で青ざめる。）

●ことわざ

古くから広く言いならわされてきた、人びとの生活の知恵や教訓、批判をふくんだ短い文句を、「ことわざ」といいます。ことわざには、動植物を使ったものや、数字を使ったものなどがあります。

・動植物を使ったことわざ

例 猿も木から落ちる（どんなに上手でも、ときには失敗する。）

どんぐりの背比べ（どれもみな同じくらいで、とびぬけてすぐれたものがないこと。）

ぐれたものがないこと。）

・数字を使ったことわざ

例 三つ子の魂 百まで（幼少時代の性質は変わらないこと。）

・その他のことわざ

例 雨降って地固まる（もめごとの後は、かえって前より落ち着いてうまくいく。）

□問一

次の□には、体の一部を表す漢字が入ります。それぞれあてはまる漢字を答えなさい。

- (1) □をくわえる（うらやましく見つめる。）
- (2) □をすっぱくする（忠告などを何度もくり返す。）
- (3) □もくれない（無視して、見ようもしない。）
- (4) □を切る（あまり好ましくない人間関係をやめる。）
- (5) □をひっぱる（他人の成功のじやまをする。）
- (6) □が下がる（相手に感心して、尊敬の念を持つ。）
- (7) □が売れる（多くの人に知られる。）
- (8) □が痛い（自分の弱点をつかれて聞かされたのがつらい。）

- |     |   |
|-----|---|
| (1) | □ |
| (2) | □ |
| (3) | □ |
| (4) | □ |
| (5) | □ |
| (6) | □ |
| (7) | □ |
| (8) | □ |

□問二

次の慣用句の□にあてはまる言葉を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) □をかぶる（本性をかくしておとなしくする。）
- (2) □の行水（入浴時間が短いこと。）
- (3) □を割ったよう（さっぱりとした気質で、物事にこだわらない様子。）
- (4) 雨後の□（似たようなものが次々と現れ出ること。）
- (5) ふくろの□（にげ出せない状態のたとえ。）
- (6) □に塩（すっかり元気をなくして、しおれている様子。）

- |     |   |     |   |
|-----|---|-----|---|
| (1) | □ | (2) | □ |
| (3) | □ | (4) | □ |
| (5) | □ | (6) | □ |
- オ 筍      ア ねずみ      カ 青菜      イ 烏      ウ 猫      エ 馬
- オ 筍      ア ねずみ      カ 青菜      イ 烏      ウ 猫      エ 馬

問三 次の文の□にあてはまる慣用句を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) あの人の身体的な能力の高さには、だれもが□。
- (2) いくら必死に頼みこんでも□。
- (3) 計画を見直した結果、□ことになった。
- (4) 彼が転校するとううわさを□。
- (5) 久しぶりの休日なので、思い切り□。
- (6) これほど大変な仕事なのに、この給料では□。

- ア 取りつく島がない
- イ 羽をのばす
- ウ 小耳にはさむ
- エ 白紙にもどす
- オ 一目置く
- カ 割に合わない

(1)	<input type="text"/>
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>
(4)	<input type="text"/>
(5)	<input type="text"/>
(6)	<input type="text"/>

問四 次のことわざと反対の意味を表すことわざを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 人を見たら泥棒と思え
- (2) 二度あることは三度ある
- (3) 下手の横好き
- (4) かえるの子はかえる
- (5) うどの大木
- (6) 立つ鳥跡を濁さず
- (7) 急いては事を仕損ずる
- (8) 転ばぬ先の杖

- ア とびがたかを生む
- イ あとは野となれ山となれ
- ウ 好きこそもの上手なれ
- エ 先んずれば人を制す
- オ 泥棒を捕らえて縄をなう
- カ 渡る世間に鬼はない
- キ 三度目の正直
- ク 山椒は小粒でもぴりりと辛い

(1)	<input type="text"/>
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>
(4)	<input type="text"/>
(5)	<input type="text"/>
(6)	<input type="text"/>
(7)	<input type="text"/>
(8)	<input type="text"/>

問五 次のことわざの□にあてはまる漢数字を答えなさい。また、そのことわざの意味としてふさわしいものを後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 仏の顔も□度まで
- (2) 石の上にも□年
- (3) 悪事□里を走る
- (4) □死に一生を得る
- (5) □階から目薬
- (6) □足のわらじをはく
- (7) □転び八起き
- (8) 一寸の虫にも□分の魂
- (9) なくて□くせ
- (10) 大山鳴動して鼠□匹

- ア 遠回りで直接の効果がないこと。
- イ 優しい人でも何度もひどいことをされればおこりだすことがあるということ。

- ウ 悪いことはすぐに知れわたってしまうということ。
- エ 大騒ぎしたわりにはその結果が小さいこと。
- オ 失敗にくじけず何度でも奮起し努力すべきだということ。
- カ 主な仕事以外に、ほかの仕事にもつくこと。
- キ がまんやしんぼうが大切だということ。
- ク だれにでもくせはあるものだということ。
- ケ どんなに小さなものでも、それ相応の意地があるということ。

コ 非常に危険な状態から、やっと助かること。

(1)	<input type="text"/>
(2)	<input type="text"/>
(3)	<input type="text"/>
(4)	<input type="text"/>
(5)	<input type="text"/>
(6)	<input type="text"/>
(7)	<input type="text"/>
(8)	<input type="text"/>
(9)	<input type="text"/>
(10)	<input type="text"/>